ほのか診察室

シリーズ 第126話

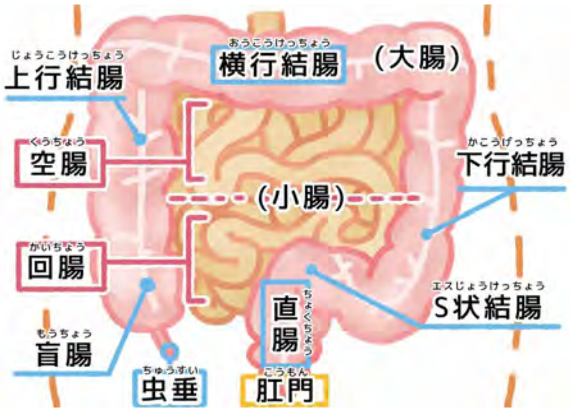
大腸がん早期発見のために

便潜血（べんせんけつ）検査だけで済ませていませんか？

大腸がんは、自覚症状があらわれにくく、現在、女性のがん死因の第1位、男性のがん死因の第3位です。2020年には男女ともに死因の第1位になると推測されるほど、近年、増加傾向にあります。

会社の健診や市の健診などで、大腸がん検査の第一段階として「便潜血検査」が広く用いられています。大腸からの出血の有無で、大腸がん、大腸炎、大腸ポリープなどの病気を簡便的に調べられる検査です。

市民病院
内視鏡センター部長医師
兼総合診療科医長
中村（なかむら） 一平（いっぺい） 監修



血便や便通異常（便が細くなったり、下痢や便秘を繰り返したりすること）などの症状が出始めたときには、本格的にがんが進行している場合が多いです。そのため、症状が出る前に「便潜血検査」を行い、進行がんになる前、つまり、大腸ポリープや早期がんの段階で早期発見することが何よりも大事です。

便潜血検査で陽性だった場合は？

早急に「大腸内視鏡検査」を受けることをお勧めします。大腸内視鏡検査とは、肛門から内視鏡を挿入し盲腸まで観察する検査のことです。

当院で平成29年4月から平成30年3月までの一年の間に、便潜血陽性や便通異常などで大腸内視鏡検査を受けられた方のうち、約30％の方に大腸ポリープが見つかり内視鏡で切除を行いました。

多くの大腸ポリープ（腺腫性ポリープなど）は、大腸がんの元になるといわれています。大腸がんになる前段階の大腸ポリープを内視鏡的に切除することで体への負担を最小限にしながら大腸がんを防ぐことに繋がります。

実際に大腸がんが見つかった患者さんの中には、「便潜血検査が陽性だったけど病院には受診しなかった。もっと早く検査すればよかった。」などといった声も聞かれます。便潜血検査が陽性であった場合は、できるだけ早く医療機関を受診しましょう。

1年に1回、便潜血検査を受け、1回でも陽性だった場合は、ぜひ大腸内視鏡検査を受けてください。今の大腸の状態を正確に把握するとともに、大腸がんを早期発見することが最も大切です。

問 市民病院（代表） TEL 22-2171